

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 令和2年3月8日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4691600151
法人名	医療法人 たからべ会
事業所名	グループホーム いちにさん
所在地	鹿児島県曾於市財部町南俣11370番地 (電話) 0986-51-6123
自己評価作成日	令和2年2月6日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/Top.do?PCD=46
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人自立支援センターかごしま福祉サービス評価機構
所在地	鹿児島県鹿児島市星ヶ峯四丁目2番6号
訪問調査日	令和2年2月26日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者様が事業所でも在宅に近い生活を過ごせるように介護支援しています。理念として「地域と連携しご利用者様が、その人らしい生活が送れるように敬意を持ってより良い支援に努めていきます」を念頭に置き日々、入居者様と接しています。そして、外部との交流として、子供達が夏休み期間は2回ほど10人前後の子供達が訪問し歌を歌ったり入居者様の肩たたきをしたりして楽しく過ごしています。入居者様の誕生日では誕生者の頭に花冠・花の首飾りを付けて入居者様と一緒に作ったケーキを提供してお祝いをしています。そして、4月は事業所の開設月になっており昨年はタコ焼きパーティーをしました。職員と一緒にタコ焼き作りを行い美味しくいただいています。他にも毎月、地元の住職様に訪問して頂きお経・法話を行っています。2月は県下一周駅伝大会があるので地元入り日は応援に行き応援旗を振り声援しています。春から夏にかけては職員と一緒に野菜・花植えを行い野菜収穫、花の成長を楽しみにして過ごされています。介護職員は、仕事への意欲や知識向上を図る為に、毎月、事業所内での勉強会・外部への研修会参加を随時行っています。

- ・当事業所は旧財部町の支所や消防署に近く市の担当者等との連携がとりやすい中心地域に立地し、JR・バスの交通機関に恵まれていることから家族等の面会にも便利な場所にある。
- ・運営母体の医療法人と24時間の医療連携体制が整っており、事業所看護職員による健康管理と併せて利用者・家族の医療や健康に関して安心となっている。
- ・道の駅での買い物や受診時に地域住民と会話したり、毎月の住職の法話や夏休み中の子供たちの訪問・イベント時のボランティア受け入れ等で、日常的に地域との交流を行っている。認知症カフェの運営に関わる等、地域と一緒に取り組んでいる。
- ・職員間のコミュニケーションが良く、無理なく仕事を継続できるようお互いに配慮している。職員間の声掛けと連携で、利用者が落ち着いて生活できるよう心配りや目配りが行き届いている。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	玄関・事務所に理念を掲げており理念に沿ったケアを心掛けている。そして、朝の申し送り後に理念を復唱している。	理念を、玄関や事務室に掲示し契約書・職員のネーム裏に掲載している。朝の申し送り時に唱和して、理念の確認とケアの振り返りを行っている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	災害時は近隣住民への強力体制もある。そして、毎月住職による法話訪問と夏休み期間は子供達の訪問あり大変喜ばれている。道の駅への買物や県下一周駅伝大会応援時に地域住民と率先して会話をしている。庭先で日光浴をする時は、散歩中の近隣住民と気軽に会話もしている。	町の夏祭りや駅伝の応援に出かけたり、道の駅での買い物や受診時に住民と会話等をしている。住職の法話や子供たちの訪問・ボランティアを受け入れたり、いきいきセンターのカフェでも住民と交流している。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている。	地域包括支援センター主催の研修会に参加したり、社協依頼により認知症家族のサロンを開催したこともある。運営推進会議では地域住民代表・民生委員・社協・市介護保険課の参加があり意見を頂き検討している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	3	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>毎回外部から4～6名の参加を頂き、事業所での行事や取り組みを報告している。そこで、色々な意見交換を行ったり他事業所の情報も頂いたりして、お互い情報共有のもと今後の介護支援に活かしていく。</p>	<p>会議は定期的に行われ、ヒヤリハットを含めた事業所の状況報告と意見交換を実施している。インフルエンザ等の感染症対応や災害時の避難時期の見きわめ等について、他事業所の情報を得る機会であり、委員の助言と合わせて参考にしている。</p>	
5	4	<p>○市町村との連携</p> <p>市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。</p>	<p>市町村担当窓口を定期的に訪問したり運営推進会議に介護保険課の職員に参加して頂きこまめに連携をとるようにしている。</p>	<p>市担当者とは、日頃から報告等で支所に出かけて連携を取っている。認知症カフェや一般介護職の集いを市と協力して実施し、市の研修会参加時には情報交換にも努めている。</p>	
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	<p>身体拘束委員会を設けており身体拘束廃止についての勉強会も行っている。現在まで身体拘束ゼロで今後も身体拘束廃止に努めていく。</p>	<p>指針があり、委員会を毎月開催している。勉強会を年1回実施し、拘束に該当するようなベッド柵はないか等、再確認している。外に出ていく利用者には一緒に散歩する等、玄関の施錠を含め、職員間の声掛けや目配りで連携して拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	事業所内でも毎年虐待防止についての勉強会を行い、日頃から会話による心理的な虐待につながる様言葉使いに気をつけている。また、身体的虐待も防止できるように職員同士で意識を高めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	権利擁護に関する勉強会を事業所内で行っている。今後は外部による研修等があれば研修参加していきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時には、一方的に説明するのではなく御家族の話に耳を傾け時間をかけて納得・理解を得られるようにしている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	入居者様の意見・不満・苦情に対しては随時カンファレンスを行い解決策の検討をしている。ご家族においては面会時に気が付いた事や希望・要望等の有無を尋ねている。また、玄関に「ご意見箱」を設置している。	利用者には日常の会話で要望等を聞いている。家族には、面会や行事参加等の来訪時に職員から近況報告等を行った後に面会してもらい、面会時に気づいたことや要望を聞いている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	ミーティングや日々の勤務時・休憩時に職員が管理者と気兼ねなく意見交換ができるように配慮している。	日頃から何でも話し合える雰囲気づくりに努めており、個別相談は随時、管理者が受けている。ミーティングで出された職員の意見は、ケアの統一に反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	勤務態度、休日、意欲などの観察や把握など常に行い働きやすい環境作りに努めている。有給も仕事に支障がない限り積極的に取り入れている。また、研修案内時も積極的に参加するように声掛けしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部の研修会・事業所内の勉強会には可能な限り参加をするように声掛けしている。研修参加後は、事業所内で発表してもらい学びを共有できるようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市主催の認知症ホームの会、ケアマネ支部会、地域の多職種連携の会を通じて知り合った他の事業所との交流を図っている。また、市内の介護職員間によるグループワークにも参加し同業者との交流も図っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居に至るまでの期間が短いことが多く、御家族、担当ケアマネ、サービス事業所より入手した情報をもとに入居者様と日常会話の中から不安や要望を聞き出し安心して生活できるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約時に御家族と話しをしながら困り事や要望等を聞き信頼関係を構築し安心して利用して頂けるようにコミュニケーションを図っていく。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居者様にとって一番良いと思われるサービスは何か、どこで生活するのが一番良いのかを考え御家族と一緒に検討を行う。例えば、身体能力に応じて本人・家族と相談して歩行器か車椅子の選択をしたりしている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	掃除・洗濯物干し・洗濯物たたみ・台拭きなどを一緒に行ったり食事の味見をして頂いたりしている。そして、入居者様の若い頃の思い出話や歌を一緒に口ずさんだりして共有できる時間を築けるように努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月手紙で時季話題や入居者様の状況報告をしたり面会時に近況報告をしたりして情報共有している。また、御家族が遠方の入居者様には毎月電話で話しができるように環境作りをしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	病院受診などに入居者様が生活していた地域・懐かしい景色を見れるようにドライブすることもある。天気の良い日は地元名所のコスモス・桜を見に行ったりしている。	面会時に居室やホールでお茶を出し、ゆっくり歓談してもらっている。家族と外食や美容室・自宅訪問等に出かけたり、職員と自宅付近をドライブする等、入居前の生活や関係が途切れないように支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	仲の良い入居者様、怒りっぽい入居者様と、無口な入居者様等がおり、その時のニーズに合わせて座席配置をしている。そして、孤立する入居者様がないように職員が入居者間での調整役を行っている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他事業所サービスを利用された方に対しては特に行っていないが同系列病院に入院された方は折に触れ見舞いに行き近況を伺ったり相談にのるなど支援に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	本人希望・意向に沿えるように日常生活の中で関心を持つように努めている。天気の良い日は近隣をドライブしたり、道の駅に買物に行ったりしている。そして、御家族にも本人の気持ちを伝えるようにしている。	なんでも気軽に話してもらえるように、本人との対話を大切にしている。困難な場合は、家族の情報等を参考に表情や仕草等で汲み取るようにしており、得られた情報を、申送りや昼の休憩時等に職員間で共有し支援に活かしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に御家族や担当ケアマネより生活歴などの情報収集を行い、入居後は日々のケアの中で本人自身から生活歴や暮らしぶりを聞き出している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日、身体状況の記録（排泄の有無・血圧・体温・食事と水分の摂取量）を行い体調の把握をしている。体調変化時は随時、対応している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的なモニタリング、毎月のミーティングで気付いた事や意見を出し合い介護計画に反映させている。また、毎朝の申し送りでも必要に応じてカンファレンスを行っている。そして、御家族へは、随時、現状報告を行い情報共有している。	面会時に把握した家族の要望等を基に、ミーティングで検討して介護計画を作成している。3ヶ月に1回、担当職員が実施したモニタリングを管理者が確認している。6ヶ月に1回及び状況変化時に計画の見直しを行っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別に、その日の様子やケアの記録を毎日、介護記録に記入している。毎朝、申し送り時に情報共有を行いより良いケアへつなげられるように努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人・御家族の要望に応じて病院受診、外出、外泊等の対応をしている。近隣にドライブしたり道の駅に買物に行ったり県下一周駅伝大会の応援に出かけたりしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地元の住職が毎月訪問され、お経・法話をして頂いている。夏季には子供達も訪問し歌・肩たたきなどをして交流を図っている。また、社会福祉協議会と連携しボランティアによる舞踊・長唄などを依頼している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・御家族同意のもと、かかりつけ医療機関に受診し緊急時も素早い対応ができており往診・訪問看護も受けられる。昨年は救急車によるかかりつけ医への搬送1件あり、そのまま入院となる。	契約時に本人・家族に確認し、母体医療機関をかかりつけ医としており、職員が受診同行し、受診結果は家族に報告している。24時間の医療連携体制が築かれており、事業所の看護職員による健康管理も行っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>看護職員2名おり常時、情報共有し必要に応じて臨時受診している。そして、協力医療機関への定期受診により入居者様・医療機関職員共に顔なじみになり親しい声掛けができていく状況にある。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入院の際は面会に行ったり病院の主治医や看護師と随時、情報交換を行っている。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>本人の御家族・かかりつけ医などと相談し方針を共有している。</p>	<p>契約時に指針で特別養護老人ホーム等の選択肢も含めて説明し、同意書をもっている。重度化等の場合は、医師から家族に状況説明を行い、その後、家族の意向を確認している。家族の希望で経口摂取ができる間は事業所での対応を、意向に沿って取り組んでいる。</p>	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>急変・事故発生時対応についてはミーティング時に随時、対応手順の勉強会をしている。そして、職員の半数は普通救命講習受講している。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防士立ち合いの消火訓練・自主避難訓練を行っている。近隣住民へも協力依頼をして応援体制をとっている。消防署も近隣で非常に心強い。そして、緊急災害に備え市役所より防災ラジオを支給してもらい緊急時の素早い情報を得ている。また、非常用の備蓄品も常時管理している。県・市からの通知・案内を確認しながら情報集している。	年2回夜間想定避難訓練を実施し、消防署の立ち合いが1回ある。住民に協力依頼をしており、母体医療機関の協力体制もある。市の防災ラジオを設置し、災害に備えている。備蓄は、水・乾麺・真空パック飯・缶詰・飴・黒砂糖・はちみつ等を確保している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様の自尊心を傷つけないように言葉使いには十分気をつけている。名前を呼ぶ時も個人に合わせて名字か名前で「○○さん」と呼んでいる。居室扉は入居者様の要望に沿って開閉状況（個室空間の有無）を作っている。	研修を実施し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応に努めている。特に、排泄介助時のさりげない声掛けやオムツ交換は戸を閉めて行う等、羞恥心に配慮している。申送りは利用者に関こえないように事務室で行い、プライバシーを確保している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の会話で、本人の思いや要望していることを聞き出して思いに添えるように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	毎日の生活パターンはほぼ同じなので本人の希望・要望時は可能な限り臨機応変に対応している。起床時間や食事時間など個別対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	2カ月毎に美容師から散髪してもらい大変喜ばれている。普段も鏡を見るように声掛けを行い、髪型や顔色・表情等を褒めるような声掛けをしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	旬の食材を使用し年齢に応じて調理方法・味付けをしている。行事食では大晦日に刺身、お正月にお節料理など行事に合った物を提供している。誕生会では一緒にケーキ・タコ焼き作りも行う。そして、食事前後の台拭きや食器の片付けを職員と一緒にやっている。	献立は職員が作成し、旬の野菜等を使って、個々に応じた食事形態で提供している。テーブル拭きや下膳を利用者と一緒に行っている。誕生日の好物やケーキ・季節の行事食・刺身・注文弁当等、食事を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の食事・水分量を毎日記録し少ない場合は、高カロリー飲料やスポーツ飲料を補給し栄養バランスや脱水防止に努めている。夏季は水分量を多めに提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯磨きの声掛け・毎日の義歯洗浄で口腔内の清潔保持をしている。自分で歯磨きできない入居者様は職員が義歯磨きをしている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	健康チェック表にて排泄時間をチェックしトイレへの声掛け・誘導を行い排泄支援している。また、オムツ使用している入居者様も日中はトイレ誘導を行い自然排泄を促している。	チェック表で排泄パターンを把握し、個々に合わせた誘導等で日中はトイレでの排泄を基本に支援している。排泄用品は個々に応じた適切なものを検討している。夜間は、ポータブルトイレやオムツを使用する利用者もいる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	健康チェック表で排便確認行いスムーズな排便がない時は水分を多めに補給したり腹部マッサージをして自然排便を促している。2日以上便秘時は主治医指示にて下剤服用し排便調整している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	週2回入浴施行。体調に応じて入浴日を変更したり清拭を行うこともある。立位困難な入居者様にはシャワーチェアを使用し安全・安楽な入浴支援をしている。身体レベルに応じて浴槽に入る入居者様もいる。	入浴は週2回午後から実施している。体調に応じての清拭や失禁時の陰洗で保清に努めている。柚子湯を楽しんでもらったりしており、入浴を嫌がる場合は、声掛けを工夫したり、無理強いせずに翌日に変更している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼夜逆転防止にて日中はレクや手作業、テレビ視聴・新聞読み等を行い生活リズムを作っている。体力に応じ日中もベッド臥床して休憩している入居者様もいる。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	投薬・定期薬管理は全職員で行い、薬の変更などがあった時は、介護支援経過に記録しカードックスにも記入している。その後の経過観察も行い記録に残している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々に合わせレク・掃除等を行っている。レクではカレンダー作成、貼り絵、色塗り、壁画作成などを行い達成感が得られるようにしている。掃除では拭き・掃き掃除を行い役割分担している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	天気の良い日は近隣へコスモス、桜、新緑などの季節感を味わえるドライブをしたり庭を散歩したりしている。そして、道の駅には買物に行き笑顔で写真撮影もしている。また、病院受診時はドライブを兼ねて景色を楽しんでもらっている。県下周駅伝大会応援も楽しみに行かれている。	気候や体調を考慮し、敷地内の散歩や日光浴を行い、時には庭でお茶飲みをしている。計画を立てて季節の花見や鯉のぼり見物に出かけ、その日の状況で道の駅での買い物に出かけている。家族の協力で外食や自宅訪問等に出かける利用者もいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お小遣いは事業所にて一括してお預かりしている。外出の買物時での支払いを職員と一緒にしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	入居者様からの要望時は御家族等にいつでも電話ができるようにしている。御家族から手紙、ハガキがきた時は代読している。現況では入居者様が手紙を出されることはない。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用スペースはカーテンで調光し、静かな音楽を流したりしている。そして、室温・湿度を確認しエアコン使用にて環境調整している。玄関・ホールには季節毎の飾りつけをしたり写真を貼ったりして自然に会話が増えるような空間を作っている。	ホールは天井が高く明るくゆったりしている。掃き出し窓で開放的であり、エアコンや加湿器があり室内環境が調節されている。利用者と一緒に毎月壁画を作成し、行事の写真と共に壁に飾っている。席替えを行って、利用者同士が居心地よく過ごせるよう工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールが洋間と畳み間に分かれており畳み間で洗濯物を畳んだりして会話できる場所がある。洋間部分は日当たりが良いので光を背中に当てながら日光浴し世間話をされ楽しまれている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	日常で使う置き時計・くし・鏡などは使い慣れた物を使用している。居室棚には御家族との写真や自分で作成したカレンダーを飾ったりしている。必用に応じて衣装ケース・タンス・テレビ・携帯電話を持参され個々で住みやすい環境作りをされている。	ベッド・物入れ棚・エアコンが居室にあり、寝具はリースを利用している。本人の使い慣れたタンスや鏡・テレビ・衣装ケースを置いたり、写真や置き時計・カレンダー・週刊誌等を好みに応じて持ち込み、本人が安心して暮らせるように工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	事業所内はバリアフリーである。移動・移乗に必要なローカ・トイレ・脱衣場・風呂場等には手すりを設置している。		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)		1 ほぼ全ての利用者の
		○	2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
		○	3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1 大いに増えている
		○	2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての家族等が
		○	2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない